

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第14号



2013年9月26日発行

発行責任者 岡田守弘

芳川玲子

〒259-1292

平塚市北金目 4-1-1

東海大学文学部心理・社会学科

あいさつ

支部長 岡田守弘

現在、神奈川支部の会員は約390名（スーパーバイザー5名）です。この総会・第33回研修会に会員の半数近くのご参加をいただき、ありがとうございます。第32回研修会では急な会場変更にも関わらずスムーズに開催できたとはいえ、ご迷惑をおかけしたことを申し訳なく思い、加えて円滑な運営にご協力いただけましたことに感謝しております。

さて、心理師（仮）国家資格化に関する動向について、6月発行の本部からのニュースレターに石隈会長より詳しい経緯が報告されていますが、請願署名は10万票を目指して8月末まで継続中です。日本臨床心理士会の資格問題諸情報（電子版速報）等によりますと、6月11日に自民党「心理職の国家資格化を推進する議員連盟」総会が開催され、代理を含む40名の国会議員と厚労省・文科省の担当課長、三団体（臨床心理職国家資格推進連絡協議会、医療心理師国家資格制度推進協議会、日本心理学諸学会連合）関係8名の参加があったとのこと。三団体からの要望書に基づいて、心理職が諸領域でどのような貢献ができるか、日本心理研修センター設立趣旨に記載されている諸研修の必要性の説明に続いて、経過措置に関する要請がなされました。参加議員からの質疑があり、厚労省、文科省ともに推進を要望していること、これまでの経過における課題などについてのやりとりがなされました。

一方、学校心理士会年報第5号の学校心理士実態調査報告では、国家資格化に賛成が68%、よくわからない若しくは反対が29%、国家試験受験意向については、必ず受験するが35%、しないが7%、内容・領域によるが43%で、国家資格化を静観しているように感じられます。

今年度の支部総会では新規事業の提案はありませんが、震災後3年以降も絶えることのない支援が肝心と考えています。あらためて、できることは皆さんとともに考えたいと思います。神奈川支部としてできることがありましたら、ニュースレターやホームページへの情報提供と合わせて、ご提案等をお寄せくださるようお願いいたします。



平成 25 年度神奈川支部総会 報告

1. 日時 6月2日(日) 14:00~14:30
2. 場所 かながわ労働プラザ(エルプラザ) 多目的ホール
3. 総会の議事と審議結果
 - 1) 開会
 - 2) 支部長挨拶 岡田守弘(支部長)
 - 3) 議長選出 大里朝彦氏を選出
 - 4) 議事
 - (1) 第1号議案 平成24年度事業報告並びに決算・監査報告について・・・承認
 - (2) 第2号議案 平成25年度事業計画並びに予算案について・・・・・・・・承認

(参考)

1. 平成24年度事業報告

- (1) 総会 第14回総会 平成24年6月24日 かながわ労働プラザ
- (2) 研修会

南関東ブロック研修・第30回研修会 平成23年6月24日 かながわ労働プラザ
テーマ「特別支援教育の視点を取り入れた学級経営」
講師：関戸 英紀(横浜国立大学)

第31回研修会 平成24年10月14日 ウィリング横浜
テーマ「普通の学級における発達障害児に対する感覚とからだのアプローチ」
ー作業療法士の立場からー
講師：木村 順(療育塾：ドリームタイム)

第32回研修会 平成25年2月24日 TKP横浜駅西口カンファレンスセンター
テーマ「スクールソーシャルワーカーの活動と役割」
ー子どもたちの育ちを支援するための協働を目指してー
講師：鳥海 佳奈枝(神奈川県SSWスーパーヴァイザー)

2. 平成24年度事業計画[研修会]

南関東ブロック研修・第33回研修会 平成25年6月2日 かながわ労働プラザ
テーマ「発達障害の医学・医療 ～医師から学校心理士へのメッセージ～」
(14:45~16:45)
講師：藤井 靖史(帝京大学教職大学院・小児科医)

第34回研修会 平成25年10月27日 かながわ労働プラザ
テーマ「WISC検査の読み取り方」
ー教育にどのように繋げるかー
講師：大草 正信(大草心理臨床・教育相談室主宰)

南関東ブロック研修会・第35回研修会 平成26年2月23日 ウィリング横浜
テーマ「特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援と対応」
講師：柘植 雅義(国立特別支援教育総合研究所教育情報部長/上席総括研究

員)

第33回研修会報告

日時 平成25年6月2日

場所 かながわ労働プラザ（エルプラザ）

発達障害の医学・医療 ～医師から学校心理士へのメッセージ～

講師 帝京大学教職大学院 藤井 靖史 先生

【研修の概要】

(1) 医学的診断の現状と課題

①発達障害とは、医学的には脳の病気であり、厳密には治らない病気

脳の形成過程・成長過程の様々なステージにおける障害、また、神経伝達物質の量や分泌メカニズムの異常など考えられるが、障害部位や原因の特定は難しい。

②診断はできるが、根治療法（根本的な治療）は難しく、対症療法が現状

診断は症状を基に診断基準（DSM-IVTR）に従って行うが、客観的に判断する基準がない。脳画像などを利用する場合も、正常個人差内に留まるため、その原因までは明らかにできない。神経伝達物質の分泌異常などは診断が困難、または不可である。原因が同じであっても、外的要因（環境、教育など）によって症状は異なる可能性がある。また、見た目は同じ症状でも、原因が異なる可能性もある。

(2) 医療が出来ること、医師の仕事

①診断には、本人、保護者、教師に障害を理解してもらうことが必要

診察室では「大人しい」場合は診断ができない。従って、保護者の話しが重要な情報となるが、保護者に病識がないと必要な情報を得られずに診断できない。医療を必要としていなければ適切な診断が出来ず、継続的な医療的ケアができない。そのため、保護者と教師に「発達障害」の医療の知識を持つことが求められる。保護者・教師・医師で共通理解を持つことで、子どもの指導・支援を統一することができ、子どもに安心感を与えることにもつながる。

②家庭生活や学校生活でのアドバイスにおける注意点

発達障害の子どもの感覚や行動を健常者の物差しで測ってはいけない。発達障害の子どもに、一方的に社会のルールを覚えこませたり、押し付けたりする指導には検討の余地がある。集団生活を送る上での課題は、発達障害の子どもだけの問題と考えずに、周囲の人間との間でどのように折り合いをつけていくかを考えて行く視点が必要である。

③療育（治療的教育）と特別支援教育との連携・連続性の必要

就学前には作業療法士や言語聴覚士、臨床心理士などが療育に関わっているが、就学とともに関われなくなることが多いのが現状である。作業療法士が行う感覚統合療法が必要な児童は通常の学級にも在籍しているのではないだろうか。

④薬物療法の意味（現時点では根治療法ではない）

発達障害の薬物療法は根治療法ではない。薬物療法の適応は、本人や周囲が発達障害を理解し環境整備がなされても、病気のため特性のためにみられる行動により、何よりも本人が不利益を被るときである。



2013年度の主な予定



第 34 回研修会

平成 25 年 10 月 27 日（日） かながわ労働プラザ
テーマ「W I S C 検査の読み取り方」—教育へのつなげ方—
講師：大草 正信（大草心理臨床・教育相談室主宰）

南関東ブロック研修会・第 35 回研修会*湘南・横須賀地区会主催

平成 26 年 2 月 23 日（日） ウィリング横浜
テーマ「特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援と対応」
講師：柘植 雅義（国立特別支援教育総合研究所教育情報部長/上席総括研究員）

日本学校心理士会年報 第 5 号（2012 年度）の紹介

お手元に、日本学校心理士会年報 第 5 号（2012 年度）が届いていることと思います。第 5 号では、理論・提言で 3 本、展望で 1 本、実践研究では 8 本の論文が掲載されています。また、前年度に引き続いて今年度も震災関連特集に 3 本の論文が掲載されました。そして、「日本学校心理士会 2012 年度大会概要」「2012 年度 学校心理士による実践活動（相談業務）に関する実態調査」の前年度調査報告が掲載されています。実践論文は、昨年度全国大会での発表などを発展させて論文化されたようです。このように、発表後も、その内容について整理し報告できる場として年報が編集されています。発表でいただいたコメントや意見を参考に、その内容を発展させて論文化に挑戦しては如何でしょうか。

2013 年度（九州産業大学）大会が開催されました

「学校心理士のつなぐ力」をテーマに、8 月 10 日（土）・11 日（日）に九州産業大学を会場に 2013 年度大会が開催されました。初日のプログラムは会長による「学校心理士の NEXT 50 ～学校教育と心理学の統合から融合への 3 つのステップ～」、文部科学省初等中等教育局児童生徒課担当者による「子どもと学校の危機への対応～学校心理士への期待」と題した講演が行われました。午後は「学校心理士による予防的心理教育プログラムの導入と実践」と題したシンポジウムが行われ、それに続いてポスターセッションと情報交換会が行われました。

2 日目は午前・午後とも 6 会場の研修会が準備されました。2014 年度大会は 8 月 30 日・31 日に「人間愛・力を合わせて子どもの支援」をテーマとして、埼玉支部を中心に文教大学での開催が予定されています。（文責：樽木）

【編集後記】 神奈川支部ニューズレター 14 号を発行することができました。今回は、総会と第 33 回研修についての報告を中心に編集しました。年間 2 回のニューズレターを発行しています。研修の報告や各種情報をみなさまにお届けし、活動のサポートを行っていきたくと考えています。神奈川支部ホームページと合わせて、今年度もよろしくお願い致します。紙面に対するご意見ご要望をお待ちしております。また、投稿も歓迎です。E-mail: ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp